

北海道本部青年技術士交流委員会 『30 周年記念イベント』

1. はじめに

9月8日、例年であればすっかり秋のさっぽろ。この日は30周年記念イベントを祝福しているかのような雲一つない青空と強い日差しが照り付けていた。後日、気象庁のデータを確認すると、驚くことに58年間の観測史上で最大の最高気温を記録していた。このような中開催された本イベントは、関係各位の温かいご協力、及び開催側の熱意も相まって大いに盛り上がったことは言うまでもない。

私自身、活動期間が浅く、本イベントに込められた想いや背景に対しては理解不足な面もあり恐縮であるが、折角執筆の機会をいただいたため、その一端を報告させていただく。

2. イベント内容の報告

(1) 開会あいさつ

本イベントは、少々張り詰めた空気の中、千葉副実行委員長の「丁寧な」司会により幕を開けた。その後の仁田実行委員長による開会の言葉では、「柔らかい雰囲気で行おう」とのご指摘があり、会場はいつもの青年技術士交流委員会の雰囲気を取り戻し、盛大に開幕した。



写真-1 会場の雰囲気

(2) 北海道本部長、歴代の方々挨拶

活動されていた当時を懐かしむ思い出話や苦労話を交えながら、北海道本部青年技術士交流委員会への想いや歴史についてご紹介いただいた。

皆さまからのエピソードについては書面の関係で割愛させていただくが、一喜一憂し努力されてきたことが積み重なり、現在の活動実績や風土に繋がっていることを感じた。



写真-2 森北海道本部長によるご挨拶

(3) 北海道の歴史紹介(木本実行幹事長)

北海道青技交の30年のあゆみを中心に、①活動の遍歴を懐かしむこと、②それを皆で共有し今後活かすことを目的に紹介された。

北海道青技交が「活発に活動できる理由」としては、①OB・OGの皆さまのこれまでのご尽力と温かいご支援・ご協力があること、②全国各地の青技交の魅力ある積極的な活動と活発な交流のお陰であること、とした上で関係者に敬意を表した。

(4) 北海道の現在の取り組み(平岡委員長)

北海道の「活発な活動」について紹介をいただいた。具体的には、①技術士の魅力を次世代に伝えるための出前講座「技術士を知ろう!」、②自分たちがいま見たいもの、聞きたいことに挑む「テクニカル

ツアー」、③話題なことについて真剣に考える「働き方改革・徹底討論」など講演会に加え、キャンプ等の交流の場を含めた 12 イベントについて、切磋琢磨しながら活動に励んでいる様子が紹介された。

(5)各本部の取り組み

◆東北本部：ワークショップやテクニカルツアーに加え、他団体とのコラボ企画についてご紹介いただいた。特に、他団体とのコラボ企画については、限られた人数で最大限の効果を生み出す工夫がなされていた。

◆北陸本部：「北陸本部は青年が中心となっていきたい！」という強い志が伝わってきた。「呑んでもプレゼンできる技術士」をテーマとして実施している「ディナーセッション」では、様々な角度からの意見が期待できるとのこと。

◆統括本部：イベント内容は、建設部会・日本大学とのコラボ企画や国際交流、さらには英語企画と多種多様で、個性豊かな活動についてご報告いただいた。

◆中部本部：他組織とのコラボ企画を実施することによるメリットについてご紹介いただいた。夜の間（お酒の間）も上手に活用し活発に意見交換をされていたのが印象的であった。

◆近畿本部：「IoT 社会での働き方」をテーマとして 3 回ものイベントを企画するなど、「話題なこと」、「疑問なこと」についてとことん突き詰める姿勢が印象的だった。

◆中国本部：一連の活動に対する付加価値の付け方が個性溢れていた。例えば、年間活動予定を決める際には会議室ではなく「古民家に缶詰」となることで発想を豊かにし、懇親会においては、「定番飲み・部屋飲み・豪華飲み」と敢えて変化をつけているとのこと報告があった。

◆四国本部：「幅広い能力向上」を目的に掲げ、リスクアセスメントから子育て論に至るまで多方面の知識を楽しく学習されていた。委員交流の側面では、「SKK46(四国 46)」の活動など、個性豊かな活動内容をご報告いただいた。

◆九州本部：活動の 3 本柱として、研鑽活動・普及活動・交流活動を掲げている九州本部。中でも普及

活動としての、女性技術者や女子学生とのお茶会や技術士の仕事を魅力的に伝えるための YouTube 情報発信が印象的であった。

3. 大懇親会

大懇親会会場は「グランド居酒屋富士」。学生時代に頻繁に迷惑をかけた居酒屋だが、今晚は尊敬する技術士集団が集まっていた。

歓談がひと段落つくと、各本部からのお土産紹介が始まり、それらの魅力をプレゼンしていただいた。

余興は「皆さん、青技交ですよ」。北海道の某情報番組でおなじみ、「奥さん、お絵かきですよ」のアレンジバージョン。ここでは、描く技術とそれを読み取る能力が肝となり、技術士の力が発揮される。一つ目のお題は「日経コンストラクション」だった。抽選で選ばれた技術士が日経コンストラクションを描き、技術士が何を描いているかを言い当てる。次々と難問をクリアし、会場は歓声に包まれた。

盛大な一次会の後は、「すみれ」のラーメンに全国の青年技術士で 30 分並び、一杯。

二次会で別れた他のグループも色々な話に華を咲かせていたことを想像する。

4. 終わりに

この度、皆さまからの報告を拝聴する中で、本委員会は「会社という看板」を降ろし、「一人の青年技術士」として活動できる場だということを改めて感じた。その意義は、技術士として、本来の社会的使命を果たすためでもあると認識した。

末筆となるが、この度遠方からわざわざ足を運んでいただいた各本部の皆様、日本技術士会北海道本部 青年技術士交流委員会の 30 年間にご尽力いただいた皆様に感謝の意を表す。



写真-3 集合写真